

東京海洋大学海洋資源環境学部の3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。学科ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学の目的（東京海洋大学学則第1条）		学部の教育研究上の目的	
東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養		海洋資源環境学部においては、海洋環境の保全と、海底を含めた海洋資源の開発と持続的利用に関心を持ち、これらに係わる諸課題をグローバルな観点から俯瞰し、解決するための高度な知識と技術を身につけ、応用力のある高度専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とする。	
ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）	カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）	アドミッション・ポリシー （入学者受入れの方針）	
1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)	1. 教育課程編成の方針	1. 受け入れる学生に求める関心、意欲	
海洋資源環境学部においては、海洋環境の保全と資源の持続的利用に関心を持ち、諸課題をグローバルな観点から俯瞰し、自ら考え、解決するための知識と技術を持った高度専門職業人の養成を目指します。	海洋資源環境学部の授業科目は、①総合科目、②基礎科目、③基礎専門科目、④専門科目、⑤資格関連科目、で構成されており、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、これらの科目区分の授業および実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。このうち特に③基礎専門科目の一部までは2学科共通の科目を多く設定し、海洋に関する基礎科学的知識を共有できるようにします。また、一部の科目に英語授業や対話型授業を導入し、国際化への対応や様々な課題への能動的・実践的な対応能力を育成します。	海洋資源環境学部では、海洋環境・海洋生物・資源・エネルギーに関するグローバルな諸課題に関心を持ち、環境の保全、海洋や資源の持続的利用、エネルギーの効率的利用などへの取り組みに意欲を持つ学生を求めます。	
2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標	2. 教育課程実施の方針	2. 受け入れる学生に求める学修成果	
【豊かな国際性と幅広い教養】 語学を含むコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、多様な社会・文化についての理解力を兼ね備えた、高い国際的・文化的教養	【総合科目】 全学体制のもとで開講され、幅広い教養、論理的思考能力、文化的素養、国際的視野、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的に、海洋に特化した大学にふさわしい内容を精選して構成します。〔2〕	(知識・技能) (1) 自然科学から工学の広範な教育を受けるに必要な資質と基礎学力	
【幅広い専門的知識】 海洋に係る幅広い基礎科学、および海洋環境の保全、修復、影響評価等に関する専門知識	【基礎科目】 専門科目を学ぶための基盤となる体系的な自然科学、数理科学を学ぶとともに、進級要件化されている英語資格試験関連の講義と演習を行います。〔3〕	(思考力・判断力・表現力等の能力) (2) 海洋環境や海洋資源に関する広範な領域の学修意欲と、新しい課題への積極性 (3) 様々な問題に取り組むための広い視野と、主体的な考え方	
【自ら考え判断できる能力】 様々な情報にもとづいて、自ら論理的に考察し、的確な判断を下せる能力	【基礎専門科目、専門科目】 海洋環境科学科では、海洋学、海洋生物学に関する基礎および専門的知識を修得させるとともに、海洋の環境をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋の現場における観測や環境調査の能力を育成します。 海洋資源エネルギー学科では、海洋に関する基礎的知識と工学の基礎的知識を基盤に、海底資源、海洋再生可能エネルギーなどの持続可能な利用に関連する専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋の利用をめぐる課題設定能力と解決能力の涵養を通じて、海洋開発の計画、管理、現場実務の能力を育成します。〔4〕	（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度） (4) 多様な人々と協働するための意思疎通能力の基礎と、異なる考え方や文化を理解・尊重する精神 (5) グローバルに活躍するための基礎語学力と意欲	
【現場で通用する実践力】 実験、実習や卒業研究などを通して得た専門知識・能力を総合し、現場における大局化した諸問題について主体的かつ実践的に探究・解決・行動できる能力	【専門科目】 状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力の修得を目標として、講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。〔4〕	3. 入学者選抜での評価方法	
3. 卒業認定（学位授与）の要件	【学修成果の評価の方針】〔5〕 全ての科目において、学習成果の評価基準を明示するとともに評価結果の活用を通して学生の自律的学習力を育成します。	本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査や、総合型選抜や学校推薦型選抜を行います。	
所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士（海洋科学）の学位を授与します。		4. 選抜方法と学修成果の評価〔6〕	
		○ 総合型選抜 （小論文、面接、志望理由書、調査書） ○ 学校推薦型選抜 （小論文、面接、志望理由書、調査書） ○ 私費外国人留学生特別入試 （個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、成績証明書） ○ 一般選抜(前期日程)※ （大学入学共通テスト、個別学力検査） ○ 一般選抜(後期日程)※ （大学入学共通テスト、個別学力検査）	
		※ 本学部を構成する海洋環境科学科と海洋資源エネルギー学科では、海洋の環境や資源の利用について広く学習するという共通要素を有することから、一般選抜（前期日程・後期日程）において2学科間の第2志望を認めます。	

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。

〔2〕 総合科目では、広範な教養教育科目等に加えて、初年次教育として共通導入科目を設け、海洋関連分野の概論科目、情報リテラシー科目、日本語表現法等の学部専門教育の学修基盤となる科目を開講します。

〔3〕 基礎科目では、数理・自然科学、人文・社会科学の基礎科目群に加えて、グローバル・キャリア関連科目として、TOEIC L&R関連科目や海外インターンシップを含むキャリア教育科目等を開講します。

〔4〕 基礎専門科目・専門科目には、英語のみで講義を行う科目及び海外派遣を伴う実習科目を開設します。

〔5〕 各科目の到達目標・評価方法・評価基準はシラバスで明示しており、科目ごとに定める到達目標の達成度について、定期試験、レポート、プレゼンテーション等により厳格な成績評価を行い、当該評価結果に応じ、A+・A・B・C・Fの成績を付与します。

〔6〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。（内容はアドミッションポリシー（全文）でご確認ください。）